

## ペタンクが元気の源

4月28日午前10時、区立梅里中央公園（梅里2-34-20）では、杉並区ペタンク連盟に加盟する4団体の20名の選手が集まり、毎年恒例の春の競技会が開催されました。優勝は、4団体の中では最も歴史の浅い「桃井ペタンククラブ」所属のチームで、「練習量の多さと結束力の差の勝利」と笑顔を見せていました。

ペタンクとは、南フランス・プロヴァンスの方言「ピエ・タンケ（両足を揃えて）」に由来する球技です。フランスでは、高齢者から子どもまでが対等に、しかも気軽に楽しめることから、500万人以上の愛好者が存在しています。日本には、昭和40年代に関連団体が設置され、シニア世代を中心に競技が行われています。

杉並区ペタンク連盟が、毎年開催している春の大会も今回が28回目。平成の時代とともに歩んできました。本日は、杉並区ペタンク連盟傘下の阿佐ヶ谷・久我山・妙正寺・桃井の4つのペタンククラブから、6チーム20人が参加。試合は、すべてトリプルスと言われる方式で行われました。トリプルスは3人対3人のチーム戦で、先攻チームが、「ビュット」と呼ばれる木製の目標球を投げ、それぞれのメンバーが目標球を目がけて、金属製のボールを一人が2球ずつ投げます。最もビュットに近いボールのチームに得点が入ります。

参加4つのクラブの中で、最も新しく設立されたのが桃井ペタンククラブです。もともとは、妙正寺公園で活動していた妙正寺ペタンククラブのメンバーの一部が、桃井原っぱ公園の開園とともに、新たな練習会場でクラブを立ち上げました。そのクラブ設立以降、練習量はどのクラブにも負けません。練習は、区立桃井原っぱ公園で、毎朝6時15分のラジオ体操に始まります。体操で体をほぐした後に、7時から8時までの1時間がペタンクの練習時間です。現在、桃井クラブは、35名ほどが在籍していますが、悩みはメンバーの高齢化です。70代・80代のメンバーが多く、年々、平均年齢が上がってしまうので、新たな仲間を呼び込むために、毎週月曜日の午前10時から正午までは、体験会を兼ねた練習も行っています。



本日の大会では、日頃からの練習の成果を発揮し、桃井ペタンククラブが優勝・準優勝を独占しました。桃井クラブのメンバーは、「練習量の勝利です。もちろんチームの結束力も味方しました。」と笑顔で話しました。また、杉並区ペタンク連盟代表の赤池辰夫さんは、「ペタンクは元気の源です。健康づくりと仲間づくりに最高なので、新しい仲間を増やしたいです。」と話しました。

### 【問い合わせ先】

総務部広報課：03-3312-2111 内線1502